



陸上競技部

もくじ

校長あいさつ

・さあ、これからだ！～巳年、呉高専の可能性～（校長 森野 数博）…1

トピックス

- ・3次元デジタル設計造形コンテスト（機械工学科5年 藤本 貴之）…2
- ・デザコン 2012 in 小山（建築学分野 光井 周平）…2
- ・平成24年度電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞を受賞して（専攻科機械電気工学専攻2年 田中 智大）…3
- ・「1日限りの阿賀学校」を開催（環境都市工学科分野 山岡 俊一）…3
- ・「第1回校長先生と語り合う会」報告（後援会副会長 谷口 和久）…4

退職教員紹介

- ・退職にあたって～私のクラブ顧問～（自然科学系分野 左古 悦雄）…4
- ・退職にあたって（機械工学分野 河口 勇治）…5
- ・退職にあたって（電気情報工学分野 植田 義文）…5

新任教員紹介

- ・Be Positive! Be Active!（人文社会系分野 上杉 裕子）…6
- ・企業経験も生かし新たなチャレンジに（電気情報工学分野 山脇 正雄）…6
- ・着任のご挨拶（建築学分野 岩城 考信）…7

卒業生紹介

- ・仲間と共に歩んだ5年間（機械工学科5年 大久保 憲佑）…7
- ・5年間をふりかえって（電気情報工学科5年 山根 悠）…8
- ・最高の仲間と最高の5年間（環境都市工学科5年 山本 祐麻）…8
- ・5年間を振り返って（建築学科5年 川本 彩瑛）…9

修了生紹介

- ・専攻科修了を前に（専攻科機械電気工学専攻2年 元石 道人・志田原 祐貴）…9
- ・7年間を振り返って～修了の前に伝えたいこと～（専攻科建設工学専攻2年 寺本 絵美）…10

学年行事

- ・自由とは何か（機械工学科1年 有尾 隆宏）…10
- ・一年間を振り返って（電気情報工学科1年 宗像 俊）…11
- ・終業の日を迎えて（環境都市工学科1年 大室 ひな）…11
- ・これまでの1年間、これからの4年間（建築学科1年 藤田 優貴）…12
- ・僕が野球から得たもの（機械工学科2年 堀 雄貴）…12
- ・ROBOCON2012（電気情報工学科2年 北倉 健伍）…13
- ・2Cクラス紹介（環境都市工学科2年 上岡 雅子）…13
- ・今日までそして明日から（建築学科2年 荒川 直人）…14

- ・三日間のステップキャンパス（機械工学科3年 中谷 夏主政）…14
- ・自分のステップキャンパス（電気情報工学科3年 一瀬 直人）…15
- ・ステップキャンパスの思い出（環境都市工学科3年 福島 凜平）…15
- ・ステップキャンパスを終えて（建築学科3年 西川 諒也）…16
- ・グアムの思い出（機械工学科4年 柿谷 航平）…16
- ・特別見学旅行n東京（電気情報工学科4年 都田 智大）…17
- ・研修旅行へ行って感じたこと（環境都市工学科4年 青野 大希）…17
- ・建築学科特別見学旅行 報告書（建築学科4年 巻幡 泰広）…18

国際交流

- ・学生たちの心を開く魔法の「異文化体験」（国際交流室長 竹内 准一）…18
- ・「ただ今！」が言える場所（里親会代表 海生 郁子）…19
- ・UHMC交流研修（電気情報工学科4年 植村 庸子）…19
- ・大連での海外発表を終えて（専攻科建設工学専攻1年 高橋 望）…20
- ・タイでの海外発表を終えて（専攻科建設工学専攻1年 高橋 望）…20
- ・海外での研究発表（専攻科建設工学専攻2年 河村 倫太郎）…21

コンテスト

- ・自らへの挑戦－英語弁論大会（人文社会系分野 市崎 一章）…21
- ・高専ロボコン2012 中国大会「特別賞（マフネーター賞）」受賞（ロボット製作クラブ顧問 野村 高広、高津 康幸、山田 祐土）…22
- ・第23回プログラミングコンテスト in 大牟田（電気情報工学分野 藤井 敏則）…22

学校行事

- ・第8回呉高専文化行事『Wasabi コンサート』の開催（学生主事補 上寺 哲也）…23
- ・平成24年度体育祭り（学生主事補 加納 誠二）…23
- ・第48回校内駅伝大会（学生主事補 加納 誠二）…24
- ・高専祭を終えて得られたもの（高専祭実行委員長 蛸瀬 大貴）…24

嶺陽寮

- ・寮での生活（電気情報工学科3年 真砂 小春）…25
- ・寮生活3年目になって（建築学科3年 堤 光希）…25

大会成績

- ・第47回全国高等専門学校体育大会成績他 …26

さあ、これからだ！ ～巳年、呉高専の可能性～

校長 森野 数博



昨年暮れ、いくつかが嬉しいことがありました。ひとつはロボット製作クラブのことです。反省会にお誘いを受けました。ご存じのように、ロボコン部員はじつによく

やっているのですが、このところ結果が伴いません。彼らは、本当に勝つにはどうすればいいか、真剣に検討をしていました。その報告のなかで、「校長に援助してもらったのに、期待に応えられなかった」という項目がありました。じつは、彼らの活動をみるなかで、少しばかりサポートしたんですね。でも、結果が出せなかった、と。しかし、私は「それは違うよ」と。「私の期待に十分応えている。何より、この反省会を行っていること自体、大きな進歩。すぐには結果が出ないかもしれないけれど、近い将来、必ず結果はついてくる」と。

ロボコン全国大会、後期中間試験の前日だったんですが、二人の学生が参加を申し出てきました。聞けば、自費でも行こうと思っていたとのこと。嬉しかったですね。そのような気持ちで参加したからこそ、見ること聞くこと感じることを、すべてが血肉になっていて、報告した内容は、部員に共有される大きな財産になったように感じました。

もうひとつは、3次元デジタル設計造形コンテストの総合優勝。本校にとって久々の全国優勝でした。しかも初出場だったんです。すごいのは、昨年の大会も下見せず、造形に使用する3次元プリンタも昨年春先に入ったばかり。テーマもハードルが高かった。ですから、正直なところ、「今回はまともに動けばいいか」と思っていました。しかし、当日会場で作品を保管して

いるケースが開けられた途端、「これはいける！」と確信しました。じつに整然と作品が納められていたんですね。しばし見とれてしまいました。そして、このリーダーが、ロボコンクラブの部員でした。

「モノはカタチから」とよく言われます。世に出回っている製品でも、自然の造形物でも、いいものは美しいですね。これは単にもものづくりに止まらず、世の中の仕組みも含めたさまざまなことがらに共通する原理だろうと思います。

昨年嬉しかったことのひとつに、分野ごとに対応して下さった草抜きがあります。みなさん気持ちよく、自発的にやって下さった。おかげで、校内が引き締まってきたように思います。図書館棟1階ロビーも改修を終え、機能性をもつすっきりとした快適な空間になりました。また、秋口を目途に、大型設備や実験室がいくつか新しくなる予定です。教育環境は、着実に整備されつつあります。

残るはソフト面。すでにご存じだと思いますが、来年度から出欠席規定を変更します。3分の1休んでも進級できる教育機関は、美しさからは程遠い存在。正常なカタチに戻します。専攻科についても入試方法を改正することで、より充実を図ることとしました。そして現在、「学習・教育目標」の具体的到達目標を明確にするべく、検討を進めています。最後に残るのが身だしなみやマナー。この二つが来年度の大きな課題だと思っています。しかし、昨年の高専祭でのみなさんの活躍ぶりをみて、可能性を確信しました。やれるよ、呉高専！

今年は巳年、脱皮の年です。巳年にあやかり、呉高専もこれまでの殻から抜け出し、ひと回り大きく成長し、再生したいと考えています。そして、来年の50周年を胸を張って迎えたいと思っています。

3次元デジタル設計造形コンテスト

機械工学科5年 藤本 貴之

平成24年12月15日~16日に、明石市立産業交流センターにて開催された「学生の3次元デジタル設計造形コンテスト」に参加しました。今年度は”ポテンシャル・エネルギー・ビークル”を3Dプリンタで制作し、全国21高専に限られた位置エネルギーでより早くゴールする作品を制作して競いました。呉高専は自分を含む上寺研究室の4名で参加しました。

呉高専は今年度始めて3Dプリンタを導入し、本コンテストも初参加ということもあり、当初は全てが手探りの状態でした。機器の特性を調べるところから始まり、作品の形が出来たころには12月になっていました。その他プレゼンテーション等も行わなくてはならず、大会ギリギリまで調整を繰り返しました。

そんな状況だったので大会前は予選突破が出来れば、くらいに考えていました。しかし本番では多くの高専がゴールできない中、呉高専は最速タイムでゴールし、総合優勝、最優秀製作技術賞、最優秀作品賞の3つの賞を頂きました。

今年で同研究生は全員卒業してしまいますが、後輩には今年度のノウハウを活かして頑張ってもらいたいと思います。

最後になりましたが、色々ご協力いただきました関係者の皆様、ありがとうございました。



デザコン2012 in 小山

建築学分野 光井 周平

毎年恒例の全国高等専門学校デザインコンペティション（通称：デザコン）が2012年11月11日から12日にかけて栃木県小山市で開催されました。デザコンは今年で9回目を迎える全国の主に建設系学科の高専生を対象とした大会で「環境デザイン」、「空間デザイン」、「構造デザイン」、「ものづくり」の4部門で競技が行われます。小山での本選には、環境、空間、ものづくりの3部門は全国予選を勝ち抜いたチームが、構造は学内予選で選ばれた各校2チーム以内が参加できます。

呉高専は昨年度に引き続き4部門、合計14名の学生が出場しました。今年度の本選ではすべての部門で本選出場を果たしたのは全国で唯一呉高専だけでした。

2日間の本選の結果、今年度は2部門で入賞しました。残念ながら入賞できなかったチームも2日間健闘しました。入賞作品は以下の通りです。

【環境デザイン部門】審査員特別賞
作品名：街角どこでもパラソル
金森猛志（建築学科5年）ほか3名

【空間デザイン部門】審査員特別賞
作品名：Der Wirbel 渦
柳川かえで（建築学科4年）

来年度は鳥取県米子市で開催予定です。他の高専からは建築学科だけでなく土木系、機械系、電気系と学科を問わず学生が参加しています。来年度も多くの学生の参加を待っています！！



平成24年度電子情報通信学会 エレクトロニクスソサイエティ 学生奨励賞を受賞して

専攻科機械電気専攻2年 田中 智大

一般社団法人電子情報通信学会より、「エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞」を受賞しました。これは2012年ソサイエティ大会(2012年9月11日～14日、富山市、富山大学)にて行った発表に対するものです。

その内容は、携帯電話で利用される電波の周波数より数十倍高い「ミリ波」と呼ばれる未利用電波領域において、超高速データ通信や高分解能レーダなどのシステム構築に不可欠な電波発生素子(発振器)の品質を保證する理論を確立し、これを実験的に実証するものです。60GHzという半導体素子にとって過酷な周波数帯において、高性能発振器の生産性向上の手助けになるものと考えております。

電気情報工学科先端電磁波システム研究室に配属されて3年間、一連の研究成果を10回の国内学会、3回の国際学会で公表して来ました。また英文で投稿した論文も先日採択され、5月発刊の学会誌に掲載されることが決まりました。高専ではこのように早期に研究活動を行うことができ、大学院修士・博士課程の受賞者が多いこのような賞を受賞することもできます。今回の受賞を励みとし、今後進学する大学院でも更なる電磁波工学の追究に精進して参ります。

最後になりましたが、これまで7年間ご指導下さいました本校の諸先生方に心より御礼申し上げます。



試作発振器性能評価の様子

「1日限りの阿賀学校」を開催

環境都市工学分野 山岡 俊一



平成24年12月16日(日)に阿賀まちづくり推進協議会のまちづくり若者提案事業として、本校の学生グループが企画した「1日限りの阿賀学校」が、廃校となった旧延埼小学校で開催されました。この取組みは2名の専攻科生

(建設工学専攻1年生)がリーダーとなり、環境都市工学科5年生3名、環境都市工学科3年生1名が中心になって企画、実行しました。取組みの内容は、阿賀住民の皆さんに、廃校となった小学校で阿賀の歴史の授業を受け、阿賀の伝統料理である「サツマ汁」と「煮ごめ」の給食を食べていただくというものです。ご高齢の方には懐かしんでいただき、若い世代には阿賀の魅力を知っていただくことを目的としています。

当日は、専攻科建設工学専攻1年生の古屋智郷さんと廣長恵里菜さんが担任を務め、給食は市立呉高校の生徒の皆さん(食物研究部、調理選択者)23名が調理しました。

また、当日のスタッフとして14名の呉高専の学生も参加しました。



5月から14回の会議と準備を重ねてきた甲斐があり、180名の住民の皆さんにご参加いただきました。

参加住民の皆さんからは、「地元阿賀の歴史を知ることができて良かった」、「給食が懐かしく、おいしかった」、「休校中の母校の教室で授業を受けられ、懐かしくて感動した」、「若い人たちが頑張ってくれてうれしい」などのお言葉を頂き、大変好評でした。

来年度に向けて、学生達は阿賀がさらに元気になる取組みを考えていますので楽しみにしててください。

第1回 校長先生と語り合う会 報告

後援会副会長 谷口 和久



堀本後援会長の発案による「校長先生と語り合う会」が1月18日(金)に開催され、校長先生より呉高専の現状と将来ビジョンを伺いました。

- ◆ 呉高専が企業・大学から信頼されていく教育体制と教育環境を整えていきたい。
- ◆ 学生の可能性を伸ばす取り組みを積極的に行い、国際感覚を備えたエンジニアとして知識、技術・技能、経営を身に付けることから自信を持ったエンジニアを育成したい。

特に、物事に疑問を持ち、考え、失敗を恐れずにチャレンジする行動力を支援する取り組みをしていきたいと語られました。

お話を伺う中で、昨年話題になった本を思い出しました。その本は、「2050年の世界 英『エコノミスト』誌は予測する」(文芸春秋)です。エコノミスト誌が、1962年に日本経済を取り上げた「驚くべき日本」で日本の経済大国化を予測・的中させました。そして、2050年の世界を予測した内容です。そこには今までに経験したことのない、想像をはるかに超える厳しい日本の状況と世界が描かれています。

予測を的中させた「驚くべき日本」には日本の教育力と勤勉さによる生産性の高さが注目され、戦後自信を失っていた日本人を勇気づけました。これからも資源の無い日本では、科学技術向上に挑戦する研究者・技術者を育成する教育が、エコノミスト誌の予測に反した結果に成り得ると、感じることができました。

今回は、学校の現状と校長先生の思いを中心に伺いました。次回(5月9日開催予定)は、多くの保護者の皆様に参加していただき、学校への理解と教育活動への協力を通じて、明日の技術者育成に支援していきましょう。

退職にあたって～私のクラブ顧問歴～

自然科学系分野 左古 悦雄

1981年(昭和56年)に本校に着任以来32年が過ぎようとしています。担当してきたクラブ顧問を振り返ってみます。

最初は卓球部でした。私自身、中学3年生の時に試合に出る目的は全く無しで、一年間みっちり卓球部でラケットを振っていましたので腕は鳴りましたが、副顧問という立場でもあり、4年間控えておりました。当時は校内球技大会で卓球種目があり、元卓球部という私は学生に大人げないことをしたこともありました。

2年目からは兼務してフォークソング同好会の顧問を8年間務めました。卓球部を抜けて女子硬式テニス同好会も3年間担当しました。ある頃、高専に勤めていて中国地区大会を知らないのもどうかと、地区大会種目の顧問をさせてくださいと希望を出し、1990年から柔道部の顧問になることができました。数年して代表顧問となり、引率場面も増えました。柔道経験は高校時代の体育の授業で2年間投げられ続けたことだけですが、昔と異なる現在の体形からしてそれらしい監督に見えていたのではないのでしょうか。柔道経験者の新しい先生に代表顧問を引き継いでからは副顧問として名前を連ねてきました。

今年度、フォークソング部の顧問を仰せつかりました。前任顧問の転出でお鉢が回ってきたようですが、めぐり合わせです。前年度フライングをしていました。授業クラスにいる部長にねじ込んで高専祭で歌わせてもらいました。私をその気にさせたのは退職教員を含む懇親会で仕事を辞めてからの趣味は何かという話題に、勢い余って「路上で歌っているかも。」と言ってしまったことです。それは無理だと我に返り、嘘はつけないとの気持ちがこのゴリ押しにつながりました。昨年度の事です。今年度は成り行きで出ささせていただきました。思えばその昔、寮祭など5回ほど人前で歌わせていただいたことがあります。最後の年度に良い気持ちでクラブ顧問ライフを閉じることができます。感謝。感謝。

退職にあたって

機械工学分野 河口 勇治



昭和43年4月から呉高専に勤めさせていただきましたが、今年度で定年退職することになり

ました。長い間、大過なく勤務することができましたことは校長先生をはじめ教職員の皆様、学生の皆様のご厚情の賜だと深く感謝申し上げます。

授業は機械工学科3年生～5年生に対して熱工学、熱機関、機械要素設計などを担当いたしました。分かりやすい授業を心がけましたが、そうは出来なかったと思っています。

担任は合計で14年させてもらいましたが、担任をした年は充実した日々だったように思います。しかし、私が気づかないうちに学生の気持ちを傷つける言動もあったと思います。この場を借りてお詫びしたいと思います。

クラブ顧問はワンダーフォーゲル・スキー部、ハンドボール部、卓球部、自動車部などのいろいろなクラブの顧問をさせていただきましたが、ワンダーフォーゲル・スキー部の顧問をした時は、夏休みを利用して北アルプスの白馬岳、中央アルプスの駒ヶ岳、南アルプスの北岳などの山々の縦走を学生達とともに行いました。テント、炊事道具、食料などの共通の荷物は学生たちが分担して持ってくれ、私たち顧問は自分の荷物だけの10kg程度の軽い荷物を背負えばよいというものでした。昨年度3学年の担任をして、ステップキャンパスで野呂山に登りましたが自分の体力が如何に落ちているかを思い知らされました。日本アルプスの縦走は今ではいい思い出になっています。

退職後は田畑が少しありますので、元気なうちは自分で食べるための米作りや野菜の栽培をしたいと思っています。長い間ありがとうございました。

退職にあたって

電気情報工学分野 植田 義文

高専がスタートして50年にもう少しでなります。

戦後の高度成長社会から、日本も物質的に豊かになりました。日本も、その間色々社会問題も乗り越えてきたと思います。

その後、20世紀末になるに従ってデフレ経済が続き、日本の元気・活力が減衰してきていることは否めません。

今、ようやく元気を取り戻そうとしています。成長経済と財政の健全化が求められています。国内外の政治・経済が益々国際化する中で、いかに舵取りするリーダーシップが求められています。

そんな中で、若い人材を社会に送り出す高専の役割を担うことが今後も続くことを願っています。

人材育成が活力を取り戻す源泉と思います。

呉高専の発展を願っています。



Be Positive! Be Active!

人文社会系分野 上杉 裕子



平成24年9月1日付で本校人文社会系に准教授として着任いたしました上杉裕子です。呉生まれ、呉育ちです。

専門はアメリカ文学、特に女性詩人 Sylvia Plath 研究、ジェンダー学です。

私は高校を卒業してから5年間社会人をした後、一念発起して大学に入りました。大学3年の時、長年の夢だったアリゾナ州立大学(グランドキャニオンに憧れて)に日本国際教育協会から奨学金を得て1年間交換留学しました。しかし英語が得意で留学したはずなのに、授業についていくのは並大抵のことではありませんでした。どのクラスでも当然日本人は私ひとり。学生たちは常に手を挙げて意見交換を活発にしていました。しかも発表はクラス貢献度として成績の10%になるというのです。当時シャイだった私は人前で手を挙げるなどという習慣はなかったので、どうしたものかと悩みました。さらに交換留学生は、もし1単位でも落としたら強制送還という身分。こんなプレッシャーのもとでこのクラス貢献度はぜひ取らないとまずい、でも手を挙げるのは・・・と悩む毎日。

しかし1カ月後、ついに恐る恐る手を挙げることに成功したのです。全く大した意見ではありませんでしたが。するとです。休憩時間にクラスメートたちがわっと私のほうに詰め掛けてきて、「どこから来たのか」等いろいろ話しかけてくれるではありませんか。

その瞬間私は全身で悟りました。自分の殻を破り一歩前に出ることがいかに大切であるかを。意見をシェアして初めて存在を認めてもらえるのだということ。そしてそれが自分の世界を拓き、言葉の習得にも役立つのだということ。とりわけ異文化、外国語を身につけるには積極性が大切だということ。留学で得た **Be Positive! Be Active!** をモットーに、呉高専でもクラス貢献度を評価に盛り込み、学生の積極性を磨いています。

企業経験も生かし新たなチャレンジに

電気情報工学分野 山脇 正雄



昨年10月に30年あまり務めていました会社を早期退職し、1月から勤務をはじめました。会社では半導体(LSIやトランジスタ)の研究開発から

生産や事業まで幅広い業務を経験してきましたが、いつも若い技術者たちと一緒に働き、ものづくりを通して苦楽を共にすることが楽しみでしたし、その経験は私の財産となっています。

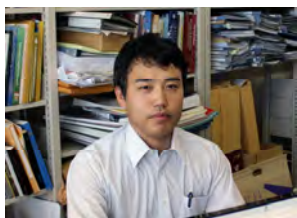
私も高専の卒業生で、学生時代はクラブ活動や高専祭に熱を入れていました。しかしそれが理由で勉強ができないという言い訳は許されないという気風がありましたので、そういった環境にずいぶん鍛えられ、会社に入ってから行動指針にもなりました。

長年会社で働いていますと、技術者教育にたずさわることも多く、教育に対する考え方が時代とともにずいぶん変わってきたと感じています。以前は与えられる教育プログラムが多かったのですが、最近では、教育を受けることが社員の権利であり義務である、つまり求めるものには多くの機会が与えられるようになってきたとも言えると感じています。自分自身を育成しようという食欲さが求められているように思います。

これから教員として再スタートするわけですが、これまでの経験が生かせる電子工学の基礎分野だけでなく、これから新たな分野も開拓したいと考えています。特に半導体ではICを作るための技術から使うための技術を学ぶ重要性が高まっています。この技術には学生のみなさんや地域の企業の方とも一緒になって新たなチャレンジをしてゆきたいと考えています。その中で、企業で学んだ良いところを少しでも伝えることができたらと考えています。

着任のご挨拶

建築学分野 岩城 考信



平成24年10月から建築学分野の准教授に着任いたしました岩城です。宜しくお願いいたします。

私は、幼少期を大阪、少年期と青年期を東京といった様々の町で過ごしてきました。そして、大学院に進学した20代は、その半分を研究留学のため東南アジアのタイ・バンコクで過ごしました。4年を超えるバンコクでの生活では、専門である都市や建築の歴史を学んだだけでなく、2つのことに強い影響を受けました。1つ目は、他者への理解の姿勢です。バンコクは様々な民族や宗教が共存する多民族都市です。そこでは異文化の他者を受け入れ、理解する姿勢が欠かせません。2つ目はおおらかさです。南国特有のポジティブシンキングを持つ人々との交流から、私の性格は強い影響を受けたといえます。

私は、建築学の中でも建築や都市の成り立ちを探る建築史と都市史を専門としています。日本国内やタイでの研究から学んだことは、建築とは様々な民族や宗教、階級や職業といった社会経済的背景と時代や地域の技術や意匠を体現する、物質文化であるということです。つまり、建築を学ぶということは、単に建築学を学ぶだけではなく、その後にある多様な文化を学ぶことにも繋がっていくのです。

それでは建築をどのように学べばよいのでしょうか。まず、本を読むこと。本を通して多くの建築とそれらへの様々な解釈を知ることとはとても重要です。ただし、本を読んでいるだけでは、見えないものがあります。だから、自ら赴いて実見することは欠かせません。

呉には良い建築や都市空間が多く残されています。建築史や都市史の研究を進める上で恵まれた環境にある呉高専に赴任したのですから、今後は周辺の都市や建築を実見し、さらに調査研究を進めていきたいと思っております。この現地調査を呉高専の同僚や学生、地域の人々と協力しながら行い、学生教育、地域貢献に生かしていきたいと思っております。これからも宜しくお願いいたします。

仲間と共に歩んだ5年間

機械工学科5年 大久保 憲佑

呉高専での5年間の学生生活において、私は文武両道を目指し努力をしてきました。何かひとつを取捨選択するのではなく、全てをやり抜き通す大切さを学び、何事にもチャレンジする精神が身につきました。学業においては勉強方法を創意工夫しながら専門科目に対する興味と学習意欲を維持してきました。部活動においても、常に挑戦する気持ちを持ちチーム全員で団結し、全国高等専門学校体育大会剣道の部に5年連続出場することができました。学生生活においては、ハワイ・マウイ島への研修旅行が私の中で一番思い出深い経験となりました。現地で体験すること全てが刺激的で、吸収しようと必死でした。特に、グローバル化が進む現代の競争社会において英語コミュニケーション能力の必要性和重要性を実感しました。たった1週間という短い期間ではありましたが、私の価値観が変わるほど十分すぎる収穫がありました。

さて、卒業式を迎えるにあたって、今まで当たり前のように仲間と一緒に授業を受け、当たり前のように昼休憩にサッカーをしてきましたが、この当たり前の日々がもうなくなってしまうととても寂しい気持ちになります。みんなと過ごしてきた5年間という日々はとても有意義な時間でした。この経験を糧に、卒業後は常に感謝の気持ちを忘れず、何事にも積極的に全力で取り組んで行きたいと思っております。最後に、5Mのメンバーは最高でした！みんなありがとう！！



5年間をふりかえって

電気情報工学科5年 山根 悠

僕は2008年の4月に入学しました。その時からもう5年が経とうとしています。

普通の高校より長い5年間という年月は、中学校より2年間も長く、入学した当初は「5年間もあるのか」と思っていました。しかし、今高専での生活を振り返ってみると、体感では中学校と同じくらいかむしろ短いくらいに感じます。

僕にとってはそれほどのスピードで過ぎ去っていった5年間でした。



そんな高専生活の中でも特に印象深いのはクラブです。僕は5年間ソフトテニス部に、また

2～5年の間に軽音楽部に入っていました。ソフトテニス部は、スポーツ自体が大好きな人たちが集まっている部活でした。休憩時にはキャッチボールやサッカーをしたり、冬で日が短く練習ができないくらい暗くなってしまったときには、体力づくりの為のランニングやいい年した人たちの本気の鬼ごっこをしたりと、常に体を動かしているととても楽しい部活でした。軽音楽部には入学当初はあまり入る気はありませんでした。音楽自体は小さいころから好きだったので、1年の頃通生で三原から通っていて単純に時間がなかったというのが理由でした。しかし2年生で寮に入ることになり、時間に少し余裕ができたので、兼部することで片方がおろそかになってしまうのではないかと不安も少しありましたが入ることにしました。結果的にこの決断は大正解で、高専祭で演奏したり、広島のリブハウスでライブしたり、ヤマハ主催のコンテストに出場したりと、とてもたくさんの活動をすることができました。今ではどちらのクラブも入っていて本当に良かったと思っています。

実はまだまだ書きたいことがたくさんありますが、文字数の都合上そろそろ終わりにしたいと思います。ここでは書ききれないほど濃い5年間を過ごさせていただきました。今までありがとうございました。

最高の仲間と最高の5年間

環境都市工学科5年 山本 祐麻

親元を離れ、寮生活を始めてから5年間経ちました。長いようで短い呉高専での生活も卒業を迎えました。勉強・部活・行事など、その時々で様々な経験をしました。そこには、共に頑張った仲間がいつもいました。

私は勉強が好きでもないし、本当に苦しみました。そんな中、クラブ活動では野球部に所属し、ここでも多くの仲間たちと励まし合いながら活動をして来ました。このため、授業中は睡魔におそわれる事も多々あり、学業はおろそかになる一方でした。しかし、私のそばにはいつも、良くできる友達がいて、困っている僕にテスト週間になると夜遅くまで勉強を教えてくださいました。友達は理解力の無い僕に対し、イライラしたこともあったと思います。しかし、嫌な顔を一つもせず丁寧に教えてくださいました。また、ある時は仲間が集まって、勉強して数々のテストを乗り越えることができました。その時、その時はすごくしんどかったのですが、今振り返れば良い思い出だったなと思います。



また、私のC5クラスの仲間は一人一人が行事にすごく熱くなるクラスであったので、他のクラスと比べて団

結力が強く、学校行事に真剣に取り組みました。高専祭では、役割分担により、揚げたこ焼きをたくさん売ることができました。球技大会ではソフトボールでクラスから毎年MVPが選出され、1位になるなど、数々の賞をもらい、クラスの掲示板を賞状でいっぱいにすることができました。ある先生には「球技大会がお前らにとって、一番輝ける日」と言われるほどでした。本当にクラスのみんなが仲良くて、何をやるにも常に一緒だった気がします。本当にみんなと離れるのが寂しいし、不安です。きっとみんなもそうでしょう。最高の仲間と最高の5年間を過ごせたことは自分にとって本当に誇りです。みんなからももらった優しさを胸に4月から始まる新しい場所での新しい生活を頑張り

5年間を振り返って

建築学科5年 川本 彩瑛



私は呉高専に入学してから5年間、女子バスケットボール部に所属していました。呉高専の女子バスケット部に入部した頃の頃は、一つのメニューが終わっては雑談タイムが始まるという、ダラダラした練習に呆れていました。しかし、中学の時はただ毎日毎日厳しい練習に耐えるだけで、バスケット自体もあまり好きではなかったのですが、高専の女バスに入って部員たちと仲良くなってからはだんだん、楽しくバスケットをすることができるようになっていきました。

しかし、楽しくダラダラと部活をしていた分、中国高専大会での結果は毎年散々な結果に終わっていました。毎年旅行気分部員たちと泊まりを楽しんでいたのですが、5年生時の高専大会は、強力な1、2年生がいたことが大きく響いて、これまで弱小だった女バスが、準決勝まで勝ち進むことができました。その準決勝は接戦で、結局2点差で惜敗しました。8年間バスケットをしていて、試合に負けて泣いたのはこの時が初めてでした。高専の女バスに入って、スタメンで試合に出るようになってからの間、試合に負けても悔しくもなるともなかったのに、この時初めて心から悔しいと思いました。もっと日頃の部活動を真面目にやっつて、1、2年生だけに頼らずプレーができていればあの準決勝の試合は勝てたと思います。でも最後の年の試合でこういう貴重な思い出ができたのは、今ではよかったなと思います。来年はもっといい結果を出せることを後輩に期待しています。来年の高専大会、応援行きます。

今5年間を振り返ると、高専生活の中で部活の時間が一番楽しかった思い出に残っています。ほんとに女バスに入ってよかったと思います。

専攻科修了を前に

専攻科機械電気工学専攻2年

元石 道人・志田原 祐貴

専攻科修了を前に、カンボジアにボランティアツアーに行ってきました。村の小学校の子どもたちに『体育』を教える活動です。

体育の授業や運動会などを実施してみたのですが、子どもたちのエネルギーって本当にすごい！あんなに無垢でまっすぐなエネルギーは初めてで、こっちも全力で受けてたちました。みんな本当にいい顔してるんです。子どもたちも、先生も。そして、みんな学校が、勉強が、カンボジアという国が大好きなんです。忘れられないのが、「カンボジアが好きですか？」という質問に答える子どもたち。言葉は一切解りませんが、その生き生きとした表情が、声が、自分の生まれ育った環境への愛にあふれていました。内戦時の暗い過去を抱えながらも、これからの未来に希望を抱く子供たちの姿に感動すると同時に、自分自身や日本の『幸せ・未来』の価値観について、今一度考える機会となりました。

本科生の時にはボランティアや海外に腰の引けていた私達が自主的にこういった活動に参加するようになったのは、ひとえに専攻科在籍中の精神的成長が大きいと感じます。後輩の皆さんには是非、興味のあることには臆せず挑戦してもらいたいと思います。



小学校にタイヤの遊具を作りました

7年間で振り返って

～修了の前に伝えたいこと～

専攻科建設工学専攻2年 寺本 絵美

高専に入学して早7年。推薦入試で面接官から「わざわざ高校の段階から建築の勉強をしたいと思ったの？」という質問に「私は今から建築の“仕事”がしたいんです！」と半ギレで答えて冷や汗が止まらなかった場面を、昨日のこのように思い出す。

高専に入学した7年前の春、中学とは全く異なる環境に愕然とした。それまでの価値観が通用せず、自分の思い通りにいかないこともしばしば起きた。それを“価値観を否定された”と捉えた私は、他の価値観を知ろうとせず自身自身の正当性を反抗的に主張した。しかし、ある社会では正しいことが、別の社会で通用するわけではない。所属する社会に大小の差はあれ、その社会での正論は様々であり、所属してみて初めてわかる。融通無碍な価値観こそ大切である。そう気付いた私は、自身の至らなさを自覚すると同時に、以前の言動を省みた。

専攻科に入学してからは休む間もなく課題や資格の勉強、そして卒業研究に追われた。プライベートでは、アルバイトや部活動も充実したおかげで、無事修了を迎えられる。これまでの毎日を頑張ることができたのは、「ギリギリでいつも生きていたから」と共に口ずさみ、“辛さ”を“笑い”に変えてくれた5人の仲間のおかげがあったからだと、改めて実感している。

私の人生の3分の1を占める高専生活。決していい思い出ばかりではないが、総てをひっくり返して本当に楽しかったと思う。高専での経験が自身の世界観を広げるきっかけとなり、私を大きく成長させた。しかし、その過程でたくさんの人を傷付けてしまったことが、とても心残りだ。同級生のみんな、先輩後輩たち、先生方、そして保護者の皆様—私が高専を通じて出会えた総ての人たちへ。「ごめんね、そして、本当にありがとう」。



自由とは何か

機械工学科1年 有尾 隆宏

高専に入り、私はとても自由な校風に驚いた。通学カバン指定なし、髪長さ指定なしなど最初は縛られない環境というのはいいなと感じていた。しかし、次第にみんなの服装が変化していき、休憩時間もマンガを読んだり、ゲームをしたりという人が多くなり、私はなんだか自分が置いてきぼりにされている気がしてならなくなった。

自由と自分勝手は違う。そんなのは小学生でもわかる。だがその境目はなんなのだろうか。その境目ははっきりとしない。人によっても考え方は違う。他人に迷惑をかけなければ自由であるという人もいるだろう。例えばの話、校則は学校によって違う。それぞれの学校の校則に従わなくてはならない。校則を破るのは確かに自分勝手であると言える。しかし、校則の範囲内なら本当に自由と言えるのだろうか？私たちは学生である。学生は勉強する身である。そして青春を楽しむ時期でもある。みんなで球技をやったり、タイ焼き売ったり、駅伝走ったり、どれも忘れられない思い出である。だが私たちは世間一般から見ると高校生なのである。高専生であろうと私達の学年は高校生と比べられてしまう。それは何も学力だけではなく、学校の生活態度なども見比べられるわけである。そして校則がゆるいからなどという理由で甘く見られるわけでもないだろう。

私はこの1年でわかったのは自由と自分勝手の境目は自分で決めるものであるということだ。中学までの校則は決めるのは難しい年頃だからという理由で厳しいのである。だが私たちはもうそんな年頃ではない。世間がどうこうというよりも、自分で判断し自分で守らなくてはならない。そしてその判断を誤った場合自分で責任を取らなくてはならない年頃なのである。これからはより大人に近づくため自分の意志を強く持ち、他人がどうであれ、流されることなく自律した生活を送っていきたいと思う。



高専祭模擬店を終えて

一年間を振り返って

電気情報工学科1年 宗像 俊

パソコンに興味を持ち、呉高専の電気情報工学科を目指しました。入学してすぐに、技術者になるための勉強と人間力を上げるための部活の両立を目指してがんばろうと決意をしました。

部活方面では、陸上競技部に入り、中学時代から継続してきた長距離走に挑もうと思いました。最初は練習メニューをこなすことができずに途中で離れてしまうことが多かったです。でも、今では練習メニューを全部いけるようになってきました。1月18日の校内駅伝大会では、クラス対抗の部ー1Eの第一走者として走り上位で「たすき」をつなぎ見事7位に導きました。また、オープン部の部ー陸上部の精鋭に混じり第五区を走り、区間賞の走りができました。

勉強方面では、最初の頃に比べると、少しずつ力が抜けていっているような感じがするので、今年の元旦、「今年は常に全力でがんばれるようにしていきたい」と決意しました。

単位を落とさないように勉強をがんばるとともにクラスのみんなとすばらしい高専生活を過ごしたいと思います。

最後にもうひとつ、6月に予定されていた1学年合同の「灰が峰」遠足登山が雨で中止になり残念でした。それに代わる「何かが今年できれば」とも考えています。写真は第59回竹原駅伝大会(H24年10月)の区間賞の賞状と呉高専から望む「灰が峰」です。



終業の日を迎えて

環境都市工学科1年 大室 ひな

一年間が過ぎるのはあっという間すぎる！！

心からそう思うのは、この1Cのユーモア、明るさ、そしてあたたかさにどっぷり浸って充実した毎日を過ごせたからです。このクラスのメンバーは、正直で、とにかくおもしろい！高専祭ではしまきを見事に完売したり、体育祭りで上位に勝ち上がったり、どの行事にもなにかと“まじ”になって取り組んできました。(クラスTシャツのハート柄でちょっと有名になりました。)しかし、ふだんはゆるゆるとした授業の中でも、試験前に教えあいこをしたり、測定の誤差がなかなか収まらない班をみんなで手伝ってあげたりと、このクラスっていいなと思う姿をたくさん見かけました。自分的に一番好きだった授業は、体育です。バレーやバスケットをやってきましたが、自分を含め、運動が苦手な女子が多い中で、男子のみんながボールを回してくれたり、シュートが決まるまで何度もチャレンジさせてくれたり、ミスをして責めることなくフォローしてくれたりしました。いつもみんなが思い切り気兼ねなく楽しめるように、お互いがごく自然に動いていました。最近はまだ、自分もすっかりゲームに参加してはしゃいでいます。

入学してきたときを思い返すと、あのころの背筋の伸びたまじめな授業態度はどこへやらというような自由きままな教室風景ですが、笑いが絶えることがありません。ただ教室の汚れには目をつぶってもらえれば。

自分が書くのもなんですが、こんなに幸せな1年を一緒に過ごせた1Cは最高のクラスだと思います。やっぱりみんなと一緒にいいです。本当にありがとうとみんなに伝えたいです！



記念撮影をしました せーのっ“WE ARE 1C!!”

これまでの1年間、これからの4年間

建築学科1年 藤田 優貴



僕たちが呉高専に入学してから、はや一年が経ちました。入学当初は出身校もバラバラで、顔も見たことのない人ばかりだったので、人見知りの僕は正直、仲良くしていけるかどうか不安でした。おそらくクラスのみんなもそんな気持ちだったと思います。

そんな中、僕はクラスでの自己紹介のときに一発ギャグをしました。当然のごとく妙な空気にはなりましたが、それがきっかけで僕はクラスの学級委員に選ばれました。その後もLHRの時間にギャグを披露する機会が増え、このためか僕の他にもギャグをする人が増えてきて、いつしかみんなの個性が目立ってくるようにもなったのです。

A1クラスみんなは、一人一人強い個性を持っていて、それぞれにいいところ、悪いところを持っています。いろんな行事、特に高専祭やその打ち上げのお菓子パーティーなどを通じてみんながより仲良くなってきたとは思いますが、少し直していかないといけない面もあるようです。

それはたとえば、授業中の積極的な発言、行動面でのもの足りなさでしょう。そこを直せばもっとクラスの雰囲気はよくなるだろうと思います。僕も率先して手本となり、クラスを盛り上げられるよう努力したいです。

これからの4年間、みんなと同じ時間を過ごして行く訳ですが、大変なこともきっとあるでしょう。時には喧嘩したり、誰かを苦手だと思ったりすることもあるはずですが、けれども、そんな場合だって嫌いな人ほど好きになろう、という気持ちで接して、友達でよかったと思えるところ、好きになれるところをお互いに捜して行ければと思っています。

僕たちA1クラスは、これからいろんな壁にぶつかるとは思うけれども、みんなで乗り越えて行こう！4年間なんてあっという間かも知れないけれども、もっといいクラスにしてゆこうね。これからも、どうぞよろしく。

僕が野球から得たもの

機械工学科2年 堀 雄貴



八月の日中、僕は照りつける太陽の下にいた。汗がとめどなく流れて、時折吹く風が体を冷ましてくれ心地がいい。よし、と自分の中で気合いを入れ、グラウンドの中へ走って行った。

僕が呉高専の硬式野球部に入部して約二年。思い返してみると色々な事が頭に浮かんできます。大変な練習にくじけそうになることもありましたが。圧倒的な負け試合を強いられることもありましたが。しかし、決して苦しいことだけではありません。

例えば、皆で一生懸命戦って試合に勝てた時です。野球は個人競技ではなく、団体競技なので一人がいいプレーをしたところでなかなか勝てません。いかに皆が力を合わせるかだと僕は思います。ということは、誰かが犠牲になることもあるかもしれません。だけど、それを乗り越えるのは皆の信頼関係だと思っています。だからこそ僕は、それを乗り越えて勝てた試合はとてもいいものだと思います。これからも、それが増やせるように頑張っていきたいです。

もう一つは僕が野球から得たものは、何ととっても仲間です。練習を共にし、試合を共にし、共に一喜一憂出来るチームメ



ートに出会えました。本当に皆はおもしろく、優しくて、今野球をしていてとても楽しいです。野球をしている時だけでなく、学校内や私生活の時などに一緒に勉強をしたり、遊んだりしてくれる皆には、本当に感謝しています。又、僕をいい意味で刺激してくれる他校の野球部のメンバー達も僕にとってかけがえのない存在です。

これからも、練習をして、野球を楽しんで、皆の期待に応えられるように頑張っていきたいと思っています。

ROBOCON2012

電気情報工学科 2年 北倉 健悟

高専ロボコンとは1998年より始まった、全国57の高専で課題に沿ったロボットでアイデアを競い合う競技です。

2012年4月、本年度のルール発表とともにアイデアを練り始めました。一番大変な時期は7月～8月、つまり夏休み期間中でした。私は主に、ロボットの制御分野を担当しました。例年ならば、既存のコントローラでロボットを動かしていましたが、今年はコントローラを使ってはいけないルールでした。そのため、センサーを使った制御をすることになり、大変苦勞しました。夏休みの後半はなかなか骨が折れました。ロボットが形になり始めた最初は思う通りの動作をしませんでしたが、次第にうまく動かせるようになっていきました。

そして迎えた大会前日・・・ロボットは動きませんでした。正直、相当焦りました。昨日まで動いていたものが動かなくなる。そんなこと本当にあるのかと思うかもしれませんが、本当にあったのです。絶望的な状況でしたが、あきらめずにできる限り手を尽くしました。そして、次第に希望が見えてきました。その時がシーズン中で一番感動した時でした。そして、大会本番。なんとか動くようにはなりました。結果は振るいませんでしたが、その分、来年への意欲が高まりました。今年の経験を活かして、来年は入賞めざして頑張っていこうと思います。



2Cクラス紹介

環境都市工学科 2年 上岡 雅子



私が呉高専に入学してから早二年経ちます。最初はクラス全体が物凄く大人しく、これから五年間このクラスでやっていけるのかと不安になりました。しかし二年経った今、緊張もすっかり解けとても明るく元気なクラスになりました。そのため球技大会などの体を動かす行事では皆が普段より輝きます。秋の球技大会ではソフトボールで成果を出し三位になりました。



勉強が理解できないときには理解している人が理解するまで教えてくれたり、一緒に解いて親身になって考えてくれます。そんな暖かさがこのクラスにあります。挙手も多く、活発的に考えを出したり発表をするので皆と受ける授業はとても楽しいです。しかし元気が良過ぎて騒がしくなってしまうときも多々あります。一年生のときよりも確実に成長していますが、こういうところが成長できていないので直していかなければならないと思います。盛り上がる時は盛り上がり、静かに聞くと時はきちんとするというメリハリは大切です。三年生になったらクラス全体で気を引き締めつつ楽しい授業の雰囲気を作っていきたいと思います。このクラスは良いところが沢山あるのでそこを伸ばして、更に素敵なクラスにしていきたいです。

今日までそして明日から

建築学科2年 荒川 直人

まず皆さんは何故部活動をやっていますか。なんとなくや成り行きですか、みんながやっているからですか。考えてみてください。そもそも部活とは学校の授業や行事と違って自分の意志でやるかやらないかを決めることができます。なのになんとかや成り行きでやっていたら時間を無駄にしていると思いませんか。

僕にとって部活とは楽しく学校生活を楽しむための営みであり、身体的・精神的に己を鍛える場所であり、青春の汗を同じ志をもった仲間たちとともに互いを磨き助け合い青春の汗をながす場所だと思えます。

僕が呉高専に入学し、アーチェリー部という部活と運命的な出会いをして約2年が経とうとしています。僕はこの2年間この部活でいろいろな出来事を体験しました。厳しい夏合宿や高専大会で2度の団体優勝、お世話になった先輩方との別れ、そして新たなる後輩との出会い、いずれも僕を人間的に成長させてくれたと思えます。先輩との交流で精神的に、普段の練習や厳しい合宿などで身体的に鍛えられました。いままで何度も逃げたい、やめたいと思うときもありましたが、今の自分は「呉高専アーチェリー部の荒川」であり、それはほかのだれにもまねできない唯一無二の存在であると思いつつかやってきました。

これから僕たちは3年生になり、高専大会団体5連覇および個人の部での優勝という目標に向かって、新たに入ってくる後輩を育成し日々精進しないとイケません。実力のある先輩たちがどんどんいなくなっている中、僕たちで目標を達成できるかわかりませんが、頑張っていきたいと思えます。



三日間のステップキャンパス

機械工学科3年 中谷 夏主政

ステップキャンパス1日目は、学科混合企画だった。ランダムに選ばれた他学科の人達とチームになって、様々なレクリエーションを行った。最初の伝言ゲームは、簡単過ぎて楽しくなかったけれど、一つ目のダンボール運び競争は、落とさずに運ぶスリルがあって楽しかったし、三つ目のドッジボールは、当てたり、当てられたりがあって、盛り上がっていたと思う。そして昼からのフリースローは、完全に失敗だったと思う。せっかく学科混合で集まっているのに、個人競技になってしまったので、全然楽しくなかった。学科混合企画は、集団競技だけにしておいた方が良さかと思った。最後のクイズは、色々な学科だけにしか分からない様なクイズがあって良かったと思うけれど、「環境は頭が良い」みたいな内輪ネタは、あまり良くなかったと思うし、最後の方は適当過ぎていたと思う。

2日目は、料理大会とミニ運動会だった。僕たちの班の料理はカレーだった。自分たちで、前日、材料を買いに行ったり、調理器具を手分けして持って来たりした。自分の班のカレーは、チキンカレーだったが、人参を多く入れたので、野菜カレーみたいだった。1度冷やしてから、再び温める方法にしたので、1日置いたような、コクのあるカレーをつくることができ、無事においしく食べることができてホッとした。昼からのミニ運動会の最初の種目は、バレーボールだった。とても白熱した接戦もあり、大変盛り上がっていた。二つ目の10人11脚は、バレーが長引いた影響で、1グループしか競技を行うことができなかった。次の借り物競争は、「かわいい男友達」とか変なものもあって、なかなかゴールできない人もいた。因幡ののぼうさぎは、上を走る人がかなり大変そうだった。最後のリレーは、トップだった機械工学科が、最後で抜き返され、惜しくも負けてしまった。

3日目の登山は、残念ながら途中で体調不良になってしまい、学校に戻る事になった。

自分のステップキャンパス

電気情報工学科3年 一瀬 直人

自分は学校行事に積極的に参加し、中心となって盛り上げる人間ではなく、むしろ皆が盛り上がっているのを見ているのが好きな人間です。このステップキャンパスでもやっぱり自分は見ていることの方が多かったのだけれど、それでもこの三日間はとても楽しく過ごすことができ、最高の思い出の一つになりました。

特に印象に残っているのが料理大会と野呂山登山です。料理大会では、自分はクラスメイトの皆と豚汁を作りました。自分は普段から全く料理をしない為、不安なところもあったけれど、皆でわいわいと作っている間は楽しく、そして完成した豚汁は誠に美味でした。ただ自分が小食であるが故にあんまり食べられなかったのが悔やまれます。またこんな風に皆で料理できたらいいなあ。



帰宅部の自分にとって登山は非常につらいものになりましたが、同時にこの三日間で一番良い思い出にもなりました。クラスメイトとお話したり、皆が遊んでいるのを見ていたり…と、こう書くと普段の行いと何ら変わらないのですが、いつもしていることも登山中という特殊な環境にあると、格別に良いもののように思えました。

三年間で築かれたクラスの絆は、このステップキャンパスでより一層深まったのではないのでしょうか。自分は、そう思います。

ステップキャンパスの思い出

環境都市工学科3年 福島 滉平

今回、報告書係になってなにかいっぱい書いたり、提出したりしないといけないと思ったけど、他の係が書いた感想を集める仕事だったので楽だった。でも、集めた感想文を word に書き込むのが大変でした。でも、感想文を読みながら、みんなステップキャンパスを楽しめたかなと思いました。



僕もステップキャンパス楽しかったです。特に優勝したミニ運動会ではノブウサギや10人11脚などで一位をとることができました。僕は、一種目も出てないけど見てて楽しかったし、クラスが一つになったと思いました。

環境都市工学科3年 中村 慎吾

私個人としては、このステップキャンパスを楽しめるかどうかの要素として、他の学科に馴染む事が重要だと思っています。

私は部活に所属しておらず、他の学科との交流が無かった為、この点が大きな不安要素となっていました。しかし当日、私と彼らは昔からの友人のように何の滞りもなく友情を深める事が出来ました。他の方の感想を見ても、皆楽しめていた事がすぐに分かりました。これは全ての学科がこれを良いものにしようとして団結した結果だと思っています。



大成功、この企画に向けて、私は自信を持ってこの一言を送ることが出来ます。

ステップキャンパスを終えて

建築学科3年 西川 諒也

4年生にジャンプするために企画されたステップキャンパス。3日間にわたる企画でしたが、この3日間で思い出がたくさんできました。

1日目は学科混合企画がありました。最初は絵伝言ゲームでした。前の人が書いた絵が何か読み取り、それを正確に伝える技術が必要とされる競技です。いかにせん、僕は絵を描くことが苦手です。それでもチームの仲間になるべく迷惑をかけないように自分のできる精一杯のことをやりました。それでも、アイスクリームのはずがカキ氷の絵をかいてみたり、スヌーピーとは名ばかりの化け物を書いてみたりと、恥ずかしい思いをしました。

次の競技のダンボール運びではルールをよく聞いてなかったため、一番手にも関わらず、ダンボールを二個運んでしまいました。あの時は何も注意されませんでした。この紙面を借りて関係各位にお詫言ひ申し上げます。

フリースロー対決では、気合十分で挑んだものの、1点も上げることができず、悔しい思いをしました。こんなことならバスケット部に入っておけばよかったと後悔しています。

2日目は料理対決でした。僕らの班の担当はオムライスでした。このため、僕は事前に玉ねぎを刻むなど自宅でしっかり準備してきました。皆で協力してオムライスを作った結果、僕らのオムライスが見事1位に輝きました。

3日目は野呂山登山です。1年生の時の灰ヶ峰登山が楽しかったこともあり、その思い出から野呂山をなめ



てかかっていたのですが、灰ヶ峰とは比べ物にならないほどの地獄を見ました。この山はアコンカグアかと思うくらいでした。それでも自分の中にあるアルピニストの血が途中脱落を許さず、意地で最後まで登り切りました。帰りは上りほどつらくはなく、クラスメートと楽しく会話しながらテンポよく山道を下って行きました。

この3日間でほかのクラスの人とも仲良くなり、一生の思い出ができました。後輩たちにもぜひ体験してもらいたい3日間だったと思います。

グアムの思い出

機械工学科4年 柿谷 航平

研修旅行でグアムに行って一番印象に残ったことは海の美しさでした。透き通った海、さらさらの砂浜、美しいサンゴ礁は日本の海を見慣れた僕の日には新鮮でとてもきれいに映りました。初日は眺めるだけでおわりでしたが、2日目以降は毎日海に入っていました。

しかし僕はカナヅチなので、2日目に海で遊んでいたときに遠浅であるグアムの海にもかかわらず溺れかけてしまいました。友達に助けられなかったら本当に問題になっていたかもしれませんでした。日本に帰ったら海には二度と入らないと決めた瞬間でした。3日目はココス島に行ってマリンスポーツを楽しみました。

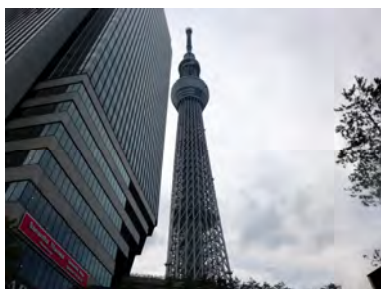
僕は去年グアムに行った先輩からのすすめでジェットスキーに挑戦しましたが、疾走感、体で波を感じることができて本当に楽しいスポーツでした。グアムではほかにパラセーリング、スキューバダイビング、ウェイクボードなど楽しめますが、もしグアムに行く機会があったら絶対に何かマリンスポーツはやるべきです。4日目は午前中だけ海に入り、午後からは最終日ということもあってショッピングでお土産など買いました。多くの人が免税店で時計や財布を買っていて、僕も新しい時計を安く買いました。そしてグアムはチョコレートが有名なので部活、家族へのお土産でチョコレートを買って、次の日の朝5時の早い飛行機便だったので、みんなで徹夜で話をして研修旅行はおわりました。

感動としては透き通った海の美しさが大きかったですが、ほかにも肉料理のおいしさ、外国にしかない商品、自然、ナイトショーのファイヤードダンスなど多くの魅力がありました。クラスメイトとは修学旅行のような雰囲気です。いろいろな話ができ、さらに仲良くなることができました。かけがえのない体験が多くでき、とてもすばらしい、楽しい旅行になりました。また機会があればグアムに行きたいと思います。

特別見学旅行 in 東京

電気情報工学科 4年 都田 智大

今回、僕たちは特別見学旅行で東京に行きました。3泊4日の日程でしたが、とても楽しい旅行でした。今回は、初日に行った東京スカイツリーについて報告したいと思います。



まず、スカイツリーの高さは 634m であり、世界一高いタワーとしてギネスにも認定されています。展望台は 350m(展望デッキ)と 450m(展望回廊)の 2 箇所があり、最高到達点(ソラカラポイント)は 451.2m です。また、展望デッキと地上をつなぐ 4 基のエレベーターには、それぞれ春夏秋冬をモチーフにした内装が施されています。



さて、このスカイツリーからどのような景色が見られるかといいますと……



見てください、この壮大な眺め!!東京の様子が目で見えます。皆さんも東京にお越しの際には、ぜひ立ち寄ってみてください。

研修旅行へ行って感じたこと

環境都市工学科 4年 青野 大希



僕たちC4は、研修旅行でグアムへ行ってきました。正直僕は大阪へ行きたかったし、グアムへ行くのは乗り気ではありませんでした。なぜなら僕は昔から機械の塊が飛ぶのが信じられず、家族旅行も「海外だけは行きたくない!」とずっと断っていたからです。ぜったい死ぬだろとか思っていました。ですが、クラスで決めたことなのでしぶしぶ行くことにしました。

当日、飛行機に乗ると、飛行機の悪口を言っていたことは全部忘れしました。

初めての飛行機に、初めての海外。小さい頃に、遊園地に連れて行ってもらえると言われた時以来のワクワク感でした。グアムに近づくにつれて、海も透き通っていき、飛行機酔いも増してゆきました。早く泳ぎたい、早く飛行機から降りたい、と、そればかり考えていました。

グアムへ着くと、日本語が役に立たないということが、身にしみました。ハンバーガーを頼んだだけなのに、レモネードがついてきたり…。レクリエーションは、バナナボート、パラセーリング、ジェットスキー、逆バンジー、ゾーブなどをしました。夜はもちろんトランプを。

4年間も一緒にいましたが、今回の旅行でやっと友達の本性が見られたような気がします。何日も一緒に過ごして、よりいっそう仲良くなれて、今ではグアムに行って本当に正解だったと思います。普段「草ばかり生やして」日記を書いているのでこのような書き方に慣れておらず、楽しさが伝わったかはわかりませんが、高専生活で一度きりのクラス単位の旅行なので、皆さんも是非海外へ行ってみてはどうでしょうか。高専祭とはまた違った連帯感が生まれると思います(o・o)/

建築学科特別見学旅行 報告書

建築学科4年 巻幡 泰広



東京スカイツリー建築概要
用途：電波塔、展望台
設計者：日建設計
監修者：安藤忠雄 澄川喜一
施工：大林組
建築主：東武タワースカイツリー
構造形式：鉄骨造

敷地面積：36,844.39m² (施設全体)

建築面積：31,832.60m² (施設全体)

延床面積：229,410.30m² (施設全体)

高さ：634m

様々な人とモノが集まる街、東京。

多くの人々を惹きつける街だが、建築を愛する人間も例外ではない。日本だけでなく、世界でも名を轟かせる建築家によって設計された建築物が、この街には溢れている。

私たち建築学科の学生は、東京を代表する建築物を幾つか見学したが、この報告書の中では、今年の5月にグランドオープンした、東京スカイツリーについて取り上げようと思う。高さ634m。自立式の電波塔では世界一の高さを誇る、というのはよく知られた話。それまで日本で一番の高さだった東京タワーの倍近い高さの建築物を、東京タワーよりも狭い敷地の中に造るということは、日本の技術者達にとっては、前人未踏のことであり、試行錯誤の連続だった。

日本は地震と台風の国である。スカイツリーは電波塔として災害時も、被災者に情報を届けなければならない使命がある。そのため、地震による揺れを最大50%低減することができる、世界初の制振システム「心柱制振」を装備している。その実力は東日本大震災の際に、構造体も作業員も無事だったことから伺える。

こうした背景を踏まえて考えてみると、自分が何の不安を抱くこともなく、展望台から東京の街並みを楽しむことができたのは、当たり前なことではなかったのだ、と改めて感じる。世界に誇れる技術力を持つ国日本で、私たちは工業技術を学んでいる。先人が培ってきた技術を踏襲し、発展させていけるかどうかは、私たち若き工業人の姿勢にかかっている。東京スカイツリーのように世界に名を轟かせるような建築物を造っていけるような技術力を身に付けていけるよう、日々精進していきたいと、今回の特別見学旅行を通じて強く感じた。

学生たちの心を開く魔法の「異文化体験」

国際交流室長 竹内 準一

昨年、中国・大連大学と交流協定を締結し、初めての学生交流が実現しました。2月中旬、大連大学の宋副学長が来校し、低学年からの学生交流を進める方向で合意を得ました。

私自身、昨年の夏は本校の学生2名を引率し、大連から2名の学生を研究室へ迎え入れ、双方向の学生交流の立会人になったのです。

私が目の当たりにしたのは、海外での冒険が学生たちの成長を促すという事実でした。同年代の若者同士が海を越えて出会うことで、言葉や文化を超越した変化が見られました。

しかし、今回の交流は本科4年生と専攻科1年生という卒業僅か1年前の高学年の学生が対象でした。そこで同じ交流の機会を用意するのなら、低学年のうちから異文化体験に触れさせてあげたいと考えついたのです。



大連郊外の JinShi ビーチにて

大連大学の学生が持つ気質で特筆すべきは、その“純朴”さです。あるいは日本の学生も昔、欧米人から純朴に見られていたらしいのですが、いつの間にか失ってしまいました。彼らの純朴さに触れて、日々、疲弊していた呉高専の学生たちが生き返っていったように私の目にはクッキリ映ったものです。

上の写真を見て下さい。学校の教師に果たせない魔法が潜んでいるのが判るでしょう。

「ただ今！」が言える場所

里親会代表 海生 郁子

呉高専には、現在、インド、マレーシア、ラオスからの留学生5名が在籍しており、呉在住の12家族で、支援・交流活動が続いています。

17年前の設立当初の学生は、40歳代半ばとなり、当時の私たちの年代と変わらなくなっていることを思うと感慨深いものがあります。

そんな私たちが嬉しく思うのは、行事の度に掲載する Facebook に沢山の「いいね！」を押し、繋がり続けてくれること。高齢化していく里親会員ですが、もう少し頑張っていこうね、と大きな励みになります。在学中は、学生達を応援していたはずの私たちが、今や立場が逆転し、いたわられているような気がします。また、卒業後、就職、結婚し、子どもができると、その都度知らせてくれ、時には、「帰っても良いですか。」と言ってくれることです。

勿論、里帰りをした学生の第一声は、「ただ今！」。「お帰りなさい。良く帰ったね！」と声を掛けながら、学生達の顔に、成長の跡を見る時、交流を続けてきて良かったと思います。思い通りにならない状況に遭遇した時など、ふと思うのは、慣れ親しんだ場所や、大切に思ってくれる人のいる場所に帰る事ではないでしょうか。勿論、留学生には、出身国にご両親やご家族がいらっしゃると思いますが、私たちも第二、第三番目の家、「手ぶらで帰って行ける場所」になってあげられたらと願っています。



秋のボーリング大会

UHMC 交流研修

電気情報工学科4年 植村 庸子



特別研修旅行でハワイのマウイ島へ行ってきました。数年前からこのプログラムへの参加を考えており、貴重な経験ができたこ

とを嬉しく思います。

海外はこの研修が初めてではないのですが、今回はホームステイという初めての体験があり、出発前は緊張していました。前回海外へ行った際は現地の人とうまくコミュニケーションがとれず歯がゆい思いをしました。しかし今回、最初は英語で話しかけられるだけで焦せっしまい英語を話すことに抵抗がありましたが、徐々に自分の気持ちなどを英語で表現できるようになりました。そしてホームステイ中、様々な体験をさせていただきました。特に強く心に残っているのはハレアカラ山頂から見た日の出です。山頂では風が強く凍えるような寒さでしたが、山頂からの景色はとても美しく壮大でした。

この研修に参加して、英語の学習に対する姿勢が変わりました。学校の試験で良い点を取るために英語を学習するのではなく、英語を使うことを目標にするようになりとても良い影響を受けたと思います。今後の目標もはっきりと分かり、よりいっそう英語の重要性を認識しました。将来英語を使わなければいけないと考えると不安になりますがこの海外研修の経験を活かし、努力していきます。



大連での海外発表を終えて

専攻科建設工学専攻1年 高橋 望

11月13日～17日に中国遼寧省大連市にて開催された International Student Conference in Dalian に参加し、中国地区の6高専と、中国にある東軟情報学院が合同で研究発表を行いました。初めての海外発表で戸惑うことも多くありましたが、落ち着いて発表をすることが出来ました。そしてベストアブストラクト賞をいただき、これからも研究活動や国際交流を積極的にしていきたいと思いました。



また、大連にある Canon やアルパインの工場見学や、中国の学生と共に大連にまつわるミッションを時間内に達成するというオリエンテーリングも行いました。

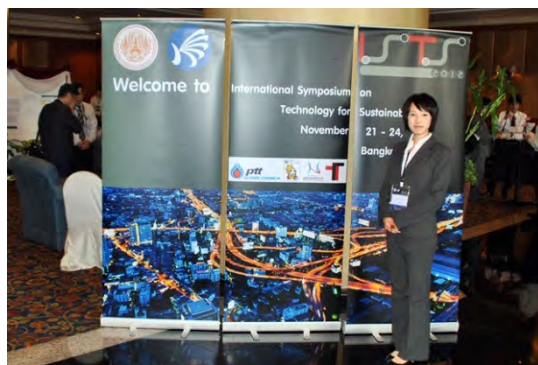
工場見学をして分かったことは、文化の異なった国で仕事をするには、日本で仕事をするより難しい部分が沢山あるということです。その中で会社が目指す目標を達成するためには、まずその地域の文化や人の考え方を理解することから始まり、それが一番大事なことだと感じました。

オリエンテーリングでは、中国茶を購入する、郵便局で絵葉書を買って家族宛に郵送する、などのミッションが与えられました。ミッションをクリアしながら、より大連の生活や文化を学ぶことが出来ました。

私は今回の発表会を通して、大連に行く前に比べて中国に関心を持ち、そして理解したいという気持ちが大きくなりました。将来は外国での仕事を任せてもらえるぐらい、広い視野を持ち、国外でも発揮出来るスキルを身につけたいと考えています。

タイでの海外発表を終えて

専攻科建設工学専攻1年 高橋 望



中国での研究発表を終え、私は4日後の11月21日～24日にタイのバンコクにて開催された ISTS2012 にも参加をしました。

ISTS は「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際シンポジウム」で、高専機構とタイ王国キングモンクット工科大学ラカバン校が研究発表を主体とし、情報交換や異文化交流を行うものです。

今回の国際シンポジウムは、大連の研究発表会よりも規模の大きなものでした。建築が専門の先生から一歩踏み込んだ質問を頂き、非常に充実した発表となりました。質問された内容と私が答えた内容が少し違っていてリスニング力をもっと鍛えなければならぬと実感しました。

また、世界遺産であるアユタヤの遺跡や建築を通して、タイの歴史に触れることが出来たことや、一緒にツアーに参加したタイの学生や他高専の学生と交流して、ぐっと視野を広げられ、とても良かったと思っています。

2つの発表会を通し、日本とは違った文化を体験することによって、今まで知らなかった世界を知ることが出来ました。また、日本の良い所や足りない所に気づくことが出来ました。

他の国に行くことは、外国について知る機会があるだけでなく、日本の文化を教える機会でもあるため、今一度自国について知らなければならぬと思います。海外に行くことで、自分自身の成長につながられるので、是非皆さんも挑戦してみてください。

海外での研究発表

専攻科建設工学専攻2年 河村 倫太郎

2012年12月、日台iGOシンポジウムが台湾の苗栗市にある国立聯合大學で行われました。日本からは25高専30名、台湾からは国立聯合大學をはじめとして5大学28名の参加者が環境（Green）と福祉（Orange）についての発表を行いました。

シンポジウムの日程自体は2日間で、自分は2日目の発表だったため、初日はリラックスできていましたが2日目は自分の発表が終わるまで気が気ではありませんでした。それでも、自分の発表の番になってしまえば、案外なんとかなるものだなと感じました。英語での質疑応答なんて聴きとることすらできないのではと思っていましたが、自分の研究に関することなのでなんとか受け答えすることができました。シンポジウム終了後は学生での交流を行ったり、帰りのフライトまでの合間に台湾新幹線に乗ったりして楽しみました。

いろいろありましたが、楽しく、ためになる4日間でした。英語の発表だとか他国の人との交流だとか恐れをなしていましたが、案外何とかなるものです。今後もグローバル化の発展に伴い、海外交流や研究発表などがあると思いますが、ぜひ皆様もどんどん参加してってもらいたいと思います。下手でもいいから、自分の考え、思いを他者に伝える。その思いこそが大事であり、外国語の勉強のモチベーションになるのではないかと思います。自分の思いを他者に伝えるツールとして、言語の勉強をしていけばいいのではないかと思います。



自らへの挑戦—英語弁論大会—

人文社会系分野 市崎 一章



今年度の大会は大島商船高専にて11月17日に開催されました。本校からは、暗唱部門にM1のソロキン君とC2の中曾さんが、スピーチ部門にはE2の栗栖君とM3の廣本さんが挑戦しました。

各部門に14名が出場して、上位3名が表彰されましたが、残念ながら本校生の名前が呼ばれることはありませんでした。しかし、ずっと練習相手を務めてきた私の眼からは、本校生は皆、本番でbest performanceを見せてくれました。

いよいよ自分の名前がアナウンスされ、いざ聴衆に面と向かった際の高揚感はいかなるものだったでしょう。参加した者にしかわからない、かつ味わえない感覚であったに違いありません。

今回、わずか一週間後には中間試験を控え、それでも困難に挑戦した上記4名には心より拍手を送りたいです。大量の英語文を暗記し、細かい発音や身振り手振りの指導を受けながら過ごした日々、そして、わずか二日間に凝縮された諸種局面での体験は、自らの血となり肉となり、彼らは一回り、否、二回りも大きく成長したはずです。弁論大会は来年も続きます。自らの成長のために、是非、一人でも多くの手が挙がることを期待しています。

高専ロボコン 2012 中国地区大会 「特別賞 (マブチモーター賞)」受賞

ロボット製作クラブ顧問

野村高広、高津康幸、山田祐士

日時:平成24年10月6日(土)～7日(日)

場所:鳥取県立米子産業体育館

ロボット製作クラブの部員達が製作した2台のペット・ロボットにて、アイデア対決・全国高専ロボコン 2012 中国地区大会に参戦しました。大会前日のテストランにおいて、安定して得点する優勝候補の5強(広船A、呉B、徳山A、松江B、米子B)に加わっていたのですが、呉A(ロボット名:Allegro)は、初戦、松江Bと対戦し敗退、呉B(ロボット名:撃ちDASH!)は、初戦、津山Aに快勝したものの、2回戦目、優勝候補の徳山Aに9点とるも、Vゴールを決められ敗退。それぞれの力を十分に発揮するには至りませんでした。全国大会への切符は逃しましたが、呉Bは、モーターの制御方法がアピールできたのか、協賛会社の特別賞である『マブチモーター賞』を受賞することができました。今回の結果を踏まえて、来年への飛躍を期待したいところです。さあ、2013年大会に向けて、ロボコン研究に励んでいきましょう!



部員31名とロボット2台にて記念撮影

第23回プログラミングコンテスト in 大牟田

電気情報工学分野 藤井 敏則

第23回全国高等専門学校プログラミングコンテストが平成24年10月13日～10月14日に有明高専の主管で開催されました。

課題部門21校、自由部門20校、競技部門58校が参加し、さらにベトナムのハノイ大学、中国の成都東軟学院、モンゴル科学技術大学、の3チームが参加して盛大に執り行われました。呉高専は電気情報工学科2年と4年の3人で競技部門に参加しました。



今年は何ぞ数えなサイ～Here are Dice!～という競技題名でした。競技の内容は、6チームの対戦で行います。机の上に置かれた大中小多数のサイコロをデジタルカメラなどの撮影機器を用いてパソコンに取り込み、画像解析を行い、サイコロの大中小の個数をそれぞれカウントしていくという競技内容です。カウントした誤差が一番少ないチームが勝利します。初日は予行演習と第1回戦があり、第1回戦は6位で最下位でした。2日目の敗者復活戦も2位となり、準々決勝へ進出しました。準々決勝では惜しくも3位となり、準決勝進出を逃しました。最後に、ご協力いただきました教職員や学生の方々、保護者や後援会の方々に感謝いたします。

第 8 回呉高専文化行事 『Wasabi コンサート』の開催

学生主事補 上寺 哲也



文化行事は『工学系の勉強だけでなく、幅広い視野を持って欲しい』との願いから、毎年「ホンモノ」の方々を招いてご公演を頂いています。今回は津軽三味線で有名な吉田兄弟の兄、吉田良一郎さんが率いる“WASABI”のコンサート「日本の心 和の響き」を開催しました。

WASABI は津軽三味線の吉田 良一郎さん、箏の市川 慎さん、尺八の元永 拓さん、太鼓・鳴り物の美鵬 直三郎さんで構成されており、「和楽器だけの音楽で“和の格好良さ”を追求し、若い人たちに伝えたい」との思いから結成された、学校公演専門ユニットです。

演奏は和楽器だけのユニットとは思えない、多彩で『格好良い』内容で、和楽器の楽しさを体験させて頂きました。また演奏の途中で体験コーナーを設けて頂き、学生が演奏をさせて頂きました。特に太鼓はメンバーの方々と合奏をさせて頂き、事が出来ました。

客席の皆さんも次第に盛り上がり、最後は演奏と手拍子で会場全体が一つになりました。

WASABI メンバー及びスタッフの皆さん、またこの行事を支えてくださった後援会および同窓会の皆さん、本当にありがとうございました。来年も「ホンモノ」の方々に ご公演頂く予定です、ご期待ください！



平成 2 4 年度体育祭り

学生主事補 加納 誠二

昨年 10 月 25 日に体育祭りが開催されました。今年度は秋晴れの良い天気の中、ソフトボール、ミニサッカー、バレーボール、バスケットボールの 4 種目で学級別の対抗試合と、学科対抗競技が行われました。

春の球技大会では遠慮がちだった低学年生も奮起して、初戦から気合いのこもった熱戦が繰り広げられていました。



結果は表の通りでした。

種目	ソフト ボール	ミニ サッカー	バレー ボール	バスケット ボール	学科 対抗	総合 優勝
1 位	5C	専攻科	2A	5A	建築	2A
2 位	5M	4C	2M	3C	環境	5C
3 位	2C	5C	4M	2A	機械	5A
4 位	3M	3A	3M	5M	電気	5M
5 位						3C

学科対抗競技は、10 人 11 脚、綱引き、リレーです。今年は 10 人 11 脚に専攻科チーム、教員チームの 2 チームが、リレーには専攻科チームが参加しました。進行役を務めてくれた長友君（5M）と神田君（4A）の軽快なトークのおかげもあり、大変盛りあがっていました。近年、学校・学科内での縦のつながりが薄れてきたと言われていますが、競技中は息を合わせて、学科の名誉を賭けて真剣勝負が行われていました。

社会に出たら、同学年だけでなく、様々な年代の人と一緒にものを作っていくことが重要です。高専では、本科 5 年、専攻科 2 年の教育課程が設けられており、体育大会をはじめ多くの学校行事もあり、幅広い友達を作ることが可能です。積極的に参加し、たくさん友達を作ってください。

また勝ったクラスの人、負けたクラスの人、来年はより良い成績が残せるよう日頃から体を動かして、頑張ってください。

第48回校内駅伝大会

学生主事補 加納 誠二

平成25年1月18日に第48回校内駅伝大会が開催されました。前日夕方小雪が舞い、風が強まったため、開催が危ぶまれましたが、当日は晴れあがり、絶好の駅伝日和となりました。



コースは学校を出発し、阿賀町内を走って学校に戻る8区間

(計13.9km)のコースです。出場チームはクラスの部20チーム、オープン部の部33チーム、そして教員チームの計54チームでした。

結果はクラスの部1位：3年電気情報（昨年も2Eとして優勝）、2位：3年環境都市、3位：5年機械、4位：1年機械、5位：4年環境都市、6位：1年電気情報、オープン部の部1位は昨年に続き、チーム走志走愛、2位：翼球部（バドミントン）、3位：サッカー部でした。

大会終了後には、呉高専後援会から「ぜんざい」、学生会から「きな粉餅」の差し入れがありました。とても美味しく、学生たちが大変喜んでいました。紙面をお借りして御礼申し上げます。また、コース準備から記録、片付けまで協力いただきました谷岡先生、佐賀野先生、陸上競技部員の皆様にも御礼申し上げます。

「駅伝」の一つの襷を繋いで、ゴールを目指す姿勢はもの作りに通じる所が大きいです。もの作りも一人でできることは少なく、チームとして作業することの方が圧倒的に多いからです。各自が自分の役割を確実に果たしながら、目標に向かってどうすればよいか皆で知恵を出し、協力して進めていくものです。

自分の番が回ってきたら、全力を尽くして事に当たる必要があります。そのためには、何時でも活躍できるように、自分の力を磨き、チームの情報を入れ、準備をしておくことが大切です。

駅伝では「襷の重み」という言葉が聞かれますが、仕事でもこの重みを感じられるようになると幸せですね。

高専祭を終えて得られたもの

高専祭実行委員長 蛸瀬 大貴



年月が過ぎるのは早く、すでに今年度の高専祭が終わって3ヶ月以上が経ちました。

『高専祭』その日を迎えるまでは、忙しい毎日のなかで、焦燥感やさまざまな思いにかられながら今か今かと当日を待ち望んでいました。そして、いざ本番！と思い、学科対抗映画の挨拶をしたかと思えば、それまで抱え込んでいたものも忘れ、ただ目の前のアクシデントに立ち向かい、気づけばすでにエンディング…。ほんの一瞬の出来事でした。4年生になり、4月あたりから準備をし始めて、約半年間。その時間に見合うだけのものが出来たかどうかは高専祭に来ていただいた人に聞いてみないとわかりません。ですが、私自身は、準備期間から高専祭までを経て、なにかに一生懸命になることの大切さを感じることができました。それぞれ残された時間は違いますが、部活、勉強、高専祭実行委員なんでもいいので何か一生懸命に取り組んでください。自らが動き、一生懸命に取り組む。それだけで、得られることはたくさんあります。

私自身、高専祭が終わり、自らを振り返ってみると変化した部分や見えなかった部分を発見することができました。

まだ遅くはないはずです！それぞれが残された時間を有意義に使って意味のある高専生活にしていきましょう！



寮での生活

電気情報工学科 3年 真砂 小春

わたしが寮に入ってからもう3年がたちます。入学したてのころは先輩たちが怖かったので、できるだけ会わないように自分の部屋で過ごしていました。だんだんと寮生活に慣れ、先輩たちとも仲良くなれたと思ったのに卒業して行って…と、気づけばもう次は4年生。今では後輩もたくさんいますが、1年生から怖いと思われていないか心配です。

寮は交友関係を広げるいい場所だとわたしは思います。呉高専の人は部活動に入っていない人が多く、クラス替えもないので同じ学科の人としか関わらないという印象があります。しかし寮生は学科に関係なく共同生活をするので他学科、他学年の人と知り合うことができ、さらに友達の友達は友達、というふうが増えていきます。また出会いだけではなく、日々生活するなかでどう上手く人とつきあっていくか、協調性を学ぶこともできます。

たしかに年々厳しくなっていく規則や、人づきあいが面倒なときもありますが、寮に入ったことに対して後悔をしたことはありません。みんな仲が良いので毎日楽しく過ごしています。そして、このような貴重な体験をさせてくれている親には感謝しています。

お金がかかるので簡単ではないとは思いますが、ぜひ寮生活をしてほしいので、家族で検討してもらいたいです。



集合写真

寮生活3年目になって

建築学科 3年 堤 光希

僕は今、寮生副会長として寮生みんなが過ごしやすい寮になるよう日々仕事をしています。

寮生活は人と人のかかわりが多い場所です。さらに、高校1年生から大学2年生までの年代が生活しているのももちろん問題は発生します。

その多くは人のモラルについての問題だと思います。その問題を改善していくのは大変難しいことだと思います。解決するための意見を言うのはだれにでもできることです。ですがそれを実行するのは僕たちにしかできないと思います。僕は副会長として会長を補佐し、寮生役員とともに寮がより良いものになるよう努力していきたいと思っています。僕は来年度の夏には寮生会長となりますが今のうちに現会長をしっかり見て学んでおきたいと思っています。



寮の食事風景

寮生活は友達という時間が長く、さらに先輩や後輩とも多くかかわり、人とのコミュニケーション能力をアップさせられる場でもあると思います。今、多くの企業で欲しい人材としてあがっているのがコミュニケーション能力のある人材です。その能力が自然と身につく場だと思います。僕もこの寮に入ってからたくさんの人と出会いました。同級生や部活の先輩以外にも友達の知っている先輩で自分と全くかわりがない先輩ともお話をして仲良くさせてもらえるのですごく楽しく生活しています。また、先輩から就職についての情報をもらえたり、すごく役に立つこともあります。僕はそんな寮に入ってからすごく良かったと思っています。

第47回全国高等専門学校 体育大会成績

期 日：8月17日（金）～8月26日（日）
会 場：中国地区高専およびその周辺の競技会場

陸上競技

【男子】

800m	予選敗退	C 3	八山 亮太
1500m	1 2 位	M 5	荒瀬 健太
5000m	2 0 位	E 3	青木 勝義
110mH	棄権	M 3	中村 和真
4×400mR	予選敗退	E 2	安井 大輔
		E 2	古田 優希
		E 2	村本 瞭真
		E 3	近廣 豊暉
		E 3	松本 直樹
		M 4	佐々木 充
走高跳	1 1 位	M 3	中村 和真
走幅跳	1 1 位	C 3	薙野 智弥
三段跳	6 位	C 3	薙野 智弥



剣道

【男子】

団体	3 位		
個人	初戦敗退	M 3	佐藤 大志



ソフトテニス

【男子】

ダブルス	2 回戦敗退	A 4	森川 翔平
		M 3	森上 祥伍
ダブルス	2 回戦敗退	M 4	向田 直樹
		A 5	二鹿 潤一



第21回西日本地区高等専門学校 アーチェリー競技会

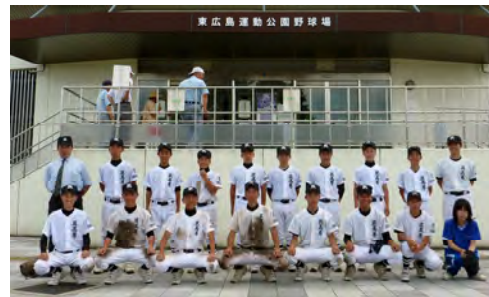
期 日：8月23日（木）～8月24日（金）
会 場：佐伯国際アーチェリーランド
主 管：本校

【男子】 団体戦男子 優勝



第94回全国高等学校 野球選手権記念広島大会

1回戦敗退



Realize your Dream 君の未来を共に創る

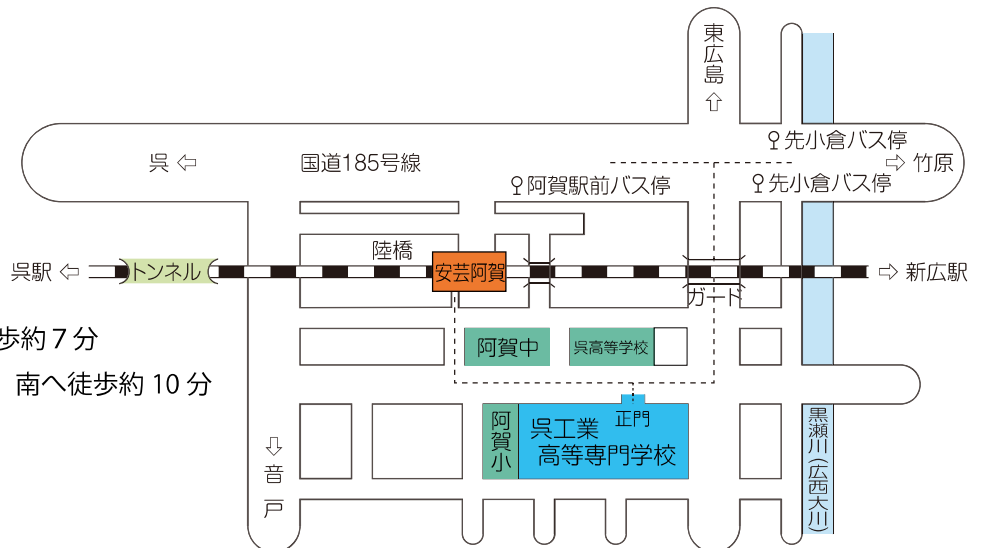
呉高専ではホームページで「球技大会」、「高専祭」、「駅伝大会」、「高専体育大会」、「ロボコン大会」等校外内の行事や「授業風景」、「寮の様子」、「クラブ活動」など日々の学生生活を「呉高専日誌」で紹介しています。

<http://www.kure-nct.ac.jp/>



アクセス

- JR 呉線・安芸阿賀駅下車 南へ徒歩約7分
- 広島電鉄バス・先小倉バス停下車 南へ徒歩約10分



2012
高専制度創設50周年
『進化する高専』
(愛称: ココくん)

高専は、高専制度創設50周年にあたり、「進化する高専」を標榜し、科学技術創造立国を担う感性と創造性が豊かな実践的技術者の育成を通して、地域社会と国際社会の発展に貢献します。

編集・発行

呉工業高等専門学校 広報室

〒737-8506 呉市阿賀南2丁目2-11

TEL 0823-73-8964 E-mail kouhou@kure-nct.ac.jp